

## 心ごと風にならう

青森県・16歳・高校生

田中希依

あなたに初めて会ったその時は、別に何とも思わなかったのに、自分でもよく分からないうちに、あなたは私の心の主人公になっていたの。宿題の作文を書くのはいやでたまらなかつたけど、こっそりつけていた日記はすらすら書いてしまっていたんだ。その理由はあなた。

あなたのことを考えるとどうしていいのか分からなくなる私は、とりあえずその日のあなたの服装とか、一日の様子を書いて、いつかあなたとお近づきになれば……、なんてことをちょっと最後に書いてみたりしていたっけ。目が合ったり、ほんの少しでも言葉を交わすだけでドキドキして嬉しくなるなんてこと、あなたが初めてだった。

いつだったか日記に書いていた「お近づきになれば」っていう願いがなかったのか、私達は少しずつ親しくなっていたよね。そこにいて、にこにこしているだけでみんなの心を和ませてくれるようなあなた。優しさをいっぱいふりまいていたよ。そんなあなたか

ら私は、その優しさとか思いやる気持ちを手伝って、たくさん元気をもらったよ。

男の子達と一緒に遊んでいる方が楽しそうだったあなたが、私にふり向いてくれたとき、一生分の幸せが波のように押し寄せてきたような感じだった。思わず涙が出ちゃったよ。

あの頃から随分たって、私は日記の代わりに遠く離れたあなたに手紙を書くようになったね。この間、私がつけていたコロンを手紙にちょっとふりかけて送った時、

「部屋に入ったら君のおいがして、君がいるのかと思った」  
って言ったよね。

私を感じてくれたんだね。嬉しかったよ。あなたが苦しい時や悲しい時、私は心ごと風になっても吹いていって、あなたを包んであげる。あなたから教えてもらった優しさで、元気を届けてあげる。だから頑張ってるね。